

はくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM VOL 6 NO 12 1982.3.1
平塚市博物館 TNO 71

□ 昭和55年度事業報告 □

新しい地域博物館づくりにまい進！

開館以来5年目を迎えた、55年度の博物館活動は、第2次・平塚市総合開発計画における、「創造性を高め文化をはぐくむ 心ゆたかなまちづくり」の一環をになって、過去、現在、未来にわたる「相模川流域の自然と文化」を展望しつつ、新しい地域博物館づくりにまい進しました。

55年度の施策と事業の概要は、以下のとおりです。

【調査研究活動の推進】 市民が求める「生きた博物館」へ対応していくために、民俗、歴史、考古、美術、生物、地質、天文などの各分野の調査、研究活動を推進し、資料の収集、分析、整理等を進めました。調査、研究活動の成果として公表した出版物の主なものは、次のとおりです。

- ・平塚市博物館研究報告「自然と文化」第4号
- ・平塚市博物館年報 第4号
- ・平塚市博物館所蔵資料目録Ⅱ

—今井家文書I—

- ・大磯丘陵の地質2 一吉沢層産化石—
- ・ローム層をさぐる 大磯丘陵東部編
- ・相模川河口の自然
- ・街の生きものたち
- ・銀河

表1 収蔵資料 (単位:点)

自然史資料				
動物	植物	古生物	岩石、鉱物、化石	その他
2,252	4,169	1,369	575	807

人文系資料		科学技術資料	
考古	民俗	歴史	宇宙・天文
460	772	6,991	114

なお、開館以来55年度末までに収集した、収蔵資料は表-1のとおりです。

【展示と機材の整備】 開館以来、新たに収集した各種資料等の市民への公開と常設展示内容を市民の生活テーマや学習活動に対応し得る展示内容とするため、55～56年度継続事業として、展示替えを行うこととし、大磯丘陵の「森と動物」、相模川河口の「川と生物」、「東海地震にそなえて」等のコーナー開設準備を進めました。

また、プラネタリウム施設の拡充を図るために、ユニプロジェクトの購入、音響設備の充実等を図りました。

【博物館事業の充実】 55年度は、下記の特別展を開催しました。

- | | |
|-----------|-------------|
| ○街の生きものたち | 7月22日～8月30日 |
| ○日本の蝶 | 12月2日～1月11日 |
| ○開化期の外国人展 | 2月17日～2月22日 |

表2 利用状況

総入館者数	プラネタリウム入場者数	投影回数
99,650人	28,501人	334回

また、博物館の備える機能を活用し、自然観察会(9回)、星を見る会(10回)、土曜観察会(14回)、デッサン教室(43回)、古文書講読会(20回)、体験学習(13回)等を開催して、市民の体験的学習活動を推進しました。

55年度の利用状況は表-2のとおりです。

【経費】 博物館活動の充実に要した経費は、下表のとおり、総額で約6,850万円余りでした。前年度の決算額は、5,512万円弱でしたので、対前年度比で24.3パーセントの伸び率となっていきます。

決算額	財源内訳				
	国庫支出金	県支出金	地方債	その他特定	一般財源
円 68,519,626	円 1,000,000	円 -	円 -	円 2,583,700	円 64,935,926

3月の行事

1	月	(休館日)
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	プラネタリウム 古文書講読会 星を見る会「月を見よう」
7	日	プラネタリウム
8	月	(休館日)
9	火	
10	水	
11	木	デッサン教室
12	金	デッサン教室
13	土	土曜観察会
14	日	横内地区自然観察会
15	月	(休館日)
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	プラネタリウム 古文書講読会
21	日	(春分の日)(休館日)
22	月	(休館日)
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	土曜観察会「高麗山の季節ごよみ」
28	日	プラネタリウム 体験学習「拓本墨を作ろう」
29	月	(休館日)
30	火	
31	水	(月末休館日)

※3月のプラネタリウムは、「銀河系」をテーマに投影します。

※4月1日は、市制記念日のため、休館します。

~年間会員募集中~
あなたも参加してみませんか

博物館では、57年度に行う自主教育活動への参加者(年間会員)を募集しています。

内容、応募方法などは、次のとおりです。

●古文書講読会

江戸時代の、農村に数多く残されている記録を読みながら、平塚の歴史について学びます。

日程 毎月第1、3土曜日

時間 午後2時から午後4時まで

募集人員 30名(高校生以上)

申し込み 往復はがきに、住所、氏名、年令、電話番号を記入のうえ、4月20日までに

●市民のアトリエ・デッサン教室

鉛筆による静物のデッサン、石膏デッサンを行います。

日程 每月第2木・金曜日

時間 午前10時から午後4時まで

募集人員 40名(一般)

申し込み 往復はがきに、住所、氏名、年令、電話番号を記入のうえ、4月20日までに

●石仏を調べる会

市内の石仏調査を行います。

日程 每月第2、4土曜日

時間 午後2時から4時まで

募集人員 20名(中学生以上)

申し込み 4月20日までに往復はがきで

●土曜観察会

高麗山、湘南平付近の自然を継続的に観察します。

日程 每月第2、4土曜日

時間 午後2時から4時半まで

申し込み 3月31日までに往復はがきで

●地層観察会

地層、岩石、化石を対象とした観察会を行います。

日程 每月1回(日曜日)

募集人員 20名(中学生以上)

申し込み くわしい案内書を送りますので、はがきで申し込んで下さい。

発掘された平安時代の井戸

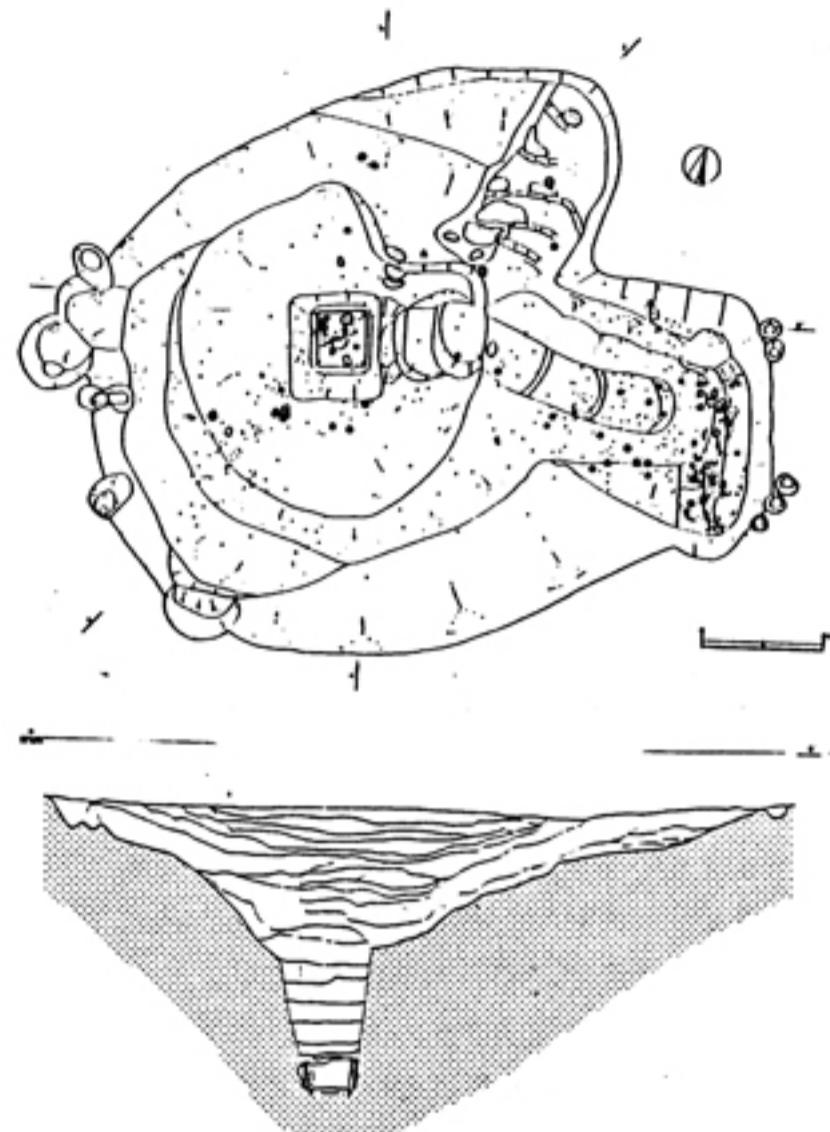
平安時代の井戸 —集落を支える水—

私達が生きていく上で欠く事の出来ないものに「水」の確保があり、古今東西を問わず重大な問題でした。今では水を蓄える技術も進歩し、不安のない日々を送っていますが、古代においては溜池や井戸を作ることによって水を確保してきました。しかし一度干ばつや氾濫が起これば、人間生活を脅す一大事であり、それだけに「水」に対する関心は非常に高かったわけです。

中原上宿遺跡では平安時代の井戸が2基検出されました。両方とも埋没砂丘上に構築されています。右図のⅣ区井戸は不整橢円形をし、径10.8m×9.2mを測り、断面ロート状をなし深さは確認した面から4.55mを測る非常に大型な規模のものです。北北東と東側に階段が見られ、後者は井戸を掘る時に出る排土を運ぶために設けられたものと推察され、前者は水を汲むために作られた階段と考えられます。井戸底には井桁に組まれた木枠が残存し、径9.6×9.7cm、深さ50cmを測り、底中央には井筒状の径3.3cmの据付曲物が検出されました。出土遺物は膨大でコンテナ箱30個ほどで、実測点数544点に達しました。土師器壺・甕、須恵器壺・壺蓋・塚・甕・瓦、灰釉陶器塚・甕、瓦、土柱、支脚、鉄製品と量・質とも豊富です。こうした規模・遺物をもつ井戸は調査例も少なく東日本最大と言えます。出土遺物から井戸の年代は平安時代前期（9世紀中頃）と考えられます。

本区内からは9世紀中頃以降の堅穴は検出されていない事から、井戸と有機的に関り合う集落は井戸の廃棄とともに衰退していったことが十分に考えられます。

このひとつ大きな理由として考えられる点に、井戸のそばから馬の歯を出土した土塗から見い出すことが出来ると思います。『日本書紀』の皇極天皇元年（646年）の条に、牛・馬を殺して雨乞いの儀式を行った事が記され、また民俗儀礼で



中原上宿Ⅳ区井戸

も死馬の骨を河・池・沼に投げて水神を怒らせて雨を呼ぶ儀礼が行われていました。こうした事例からも土塗の存在は井戸と密接なつながりをもち、殺馬祭神を行い、「雨乞い」をしたことが解釈出来るものと思います。

この時期には頻繁に大旱、大雨や火山灰降下が起こり、それに付随して派生する疫・飢饉、飢民は『六国史』に多く記載されている事から、調査区の集落の衰退の要因として「井戸」の渇水が考えられます。馬の歯の出土はそれを傍証しうるものと言えます。

水を確保できるか、できないかが集落の存続を決定しうると言っても過言ではなく、まさにこの井戸が物語っていると考えます。（A）

おことわり 「教育普及活動の紹介」は、今回は、お休みさせていただきます。

天文コーナー

富士山頂に沈む夕日

田村にお住まいの四宮さんから、彼岸になると太陽が富士山頂に沈む、という古くからの言い伝えをお聞きしました。

彼岸の中日の太陽は真西に沈みますから、山頂が真西に見える所なら良さそうに思い、地図を見ると、南金目から四之宮を結ぶ地域でした。

実は山頂は地平線より約3.8度高く、太陽は斜めに沈むために山頂が真西に見える地域では山腹に入ってしまうのです。そのため、約1.4kmほど北の田村で山頂に沈むのが見られるようです。

市内の他の地域でも、彼岸前後に見られる現象ですから日の入りに注目してみてはいかがでしょう。

市民のアトリエ・デッサン教室 作品展

会期 4月2日(金)~4月20日(火)

会場 博物館特別展示室

会員の皆さんのお力を紹介いたします。1年間頑張った成果をごらん下さい。

2月受入寄贈資料(敬称略)

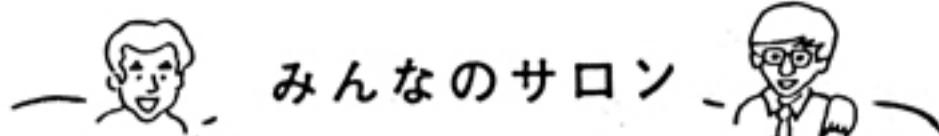
1. 30 市制記念飛行写真 平塚市
広川 雅田尚雄
シロカキ 平塚市上平塚7
今井英雄
2. 4 三州釜 平塚市万田606
出縄酒造(株)

ご協力を深く感謝いたします。

はくぶつかん

VOL. 6 №12通巻71号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 ©3500

発行 平塚市博物館 〒254 平塚市浅間町12-41 TEL 33-5111



「なんでも書いてみよう」ノートより

February 14 (Sun) Varentrain o day

受験生のみなさん、どうお過ごしのほどござります?
私も、(火曜)(受験生の1人)のです。
今、左側には時計がございます。
たまに、入試の勉強を今日から始めようとじつは9月から
もと前から始めようとは考へていません。
2月11日趣味に手が動いてしまった…
あれ…どうしよう。
私は、公立本校をうみに
(おちたら、北海道へ)や中華街に移りきる…)
しかし、おちたら私は(い、いに北海道へ就職)行きましょう

To the way.

誰かねと(は)は「松山市看玉」のカートへ
まいませいか?
おしゃれ!

Bye. Bye ピー by Chiharu

みんなの意見、おたよりを送って下さい。
ペンまたは万年筆の黒で書いてね!……

2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
27	25	23	19	14	9	5	29	23	17	12
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

弘前市	稲沢市	定例会	高瀬氏	海老名市	定例会	自然解説会	展示会	石仏を調べる会	自然観察会	天文展示「太陽と私たち」
から	から	打ち合わせ	資料の搬入	からの視察	打ち合わせ	文化、年報の入札。	の入札。	(小川)。	「ローム層の観察」(森)	三面回転パネル修理完了。(鷹・森田)
の視察。	の視察。	わせ会。	の搬入。	からの視察。	わせ会。	自然の入札。	展示の入札。	土曜観察会	「太陽と私たち」	バ
。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

学芸日誌